

1. 動き

（1）COMESA加盟国、砂糖の高い生産量を維持(2019.5.4)

COMESA地域の8カ国はEU、米国及び中国に対して輸出される未加工農産物の中でも砂糖の生産に影響がある。域内で糖の生産一位はエスワティニ（650,000千トン）、二位はエジプト（595,000千トン）、三位はザンビア（450,000千トン）である。粗糖の輸入国はイスラエル、ロシア、タンザニア等である。2019年4月に行われた第9回アフリカ砂糖会議では、COMESAは、東部アフリカ商品貿易同盟を通じて参加し、ムクカ種子開発専門家は砂糖に焦点をあて、持続可能な農業の世界潮流に関する特別講演を実施した。同会議において、アフリカは、世界の砂糖総生産の6%を占めており、COMESA加盟国は、アフリカの総生産量の52%を占めていることが分かった。アフリカの消費は過去15年に比べて70%以上成長しており、世界の他の地域の年間成長のほぼ二倍である。この成長にもかかわらず、アフリカの消費は、1人あたり17キログラムであり、世界平均の23キログラムに比べて大きく下回っている。サブサハラ地域は世界のどの地域と比較しても砂糖消費成長の大きなポテンシャルがある。

（2）COMESA、開発パートナーと調整フォーラムを開催(2019.5.6)

COMESAと開発パートナーは、6日、ルサカで第二回共同調整フォーラムを開催した。本フォーラムの目的は、開発協力事項に関するベストプラクティスの促進と建設的関与のための政策及び事務レベルでの定期的かつ構造的対話のプラットフォームを提供することである。同フォーラムは、COMESA事務局が、開発パートナーに対して、ポテンシャルのあるプロジェクトの提案や資金が必要な優先分野を示すためのプラットフォームとなる。COMESA開発予算の64%は開発パートナーによるもので、その中でもEUが最も多い。複数年財政枠組みであるEU開発基金（EDF11）は8,500万ユーロあり、貿易促進、小規模越境貿易、地域バリューチェーン開発、及びキャパシティビルディングの4主要分野に取り組むものである。

（3）COMESA、マラウイの三者選挙監視ミッションによる仮発表(2019.5.24)

マラウイ政府の求めに応じ、COMESAは2019年5月21日、三者選挙の短期監視ミッションを派遣した。ミッションは、政党を含めた様々な関係者から高い満足度を得た。選挙においては、選挙に関する事項について議論し同意を形成する国家選挙諮問フォーラムを設立した。草の根レベルでの政党間の対話と問題解決のための綱領を定める多党間リエゾン委員会が設立された。政府は、雇用主が従業員に投票することを可能とする指示を出したが、将来の選挙においては、政府は、投票者の時間が十分に確保できるように、選挙日を休日とすることを検討することを薦めた。

ミッションは、マラウイ選挙管理委員会が、市民社会団体と協力して行った努力を認める一方で、地方においてより努力が必要であると考えている。マラウイ選挙管理委員会が、あるカテゴリーの人々が、登録していない投票所での選挙を容認する指示については、このような決定は混乱を避けるために十分に前もって決定し通知すべきであったという見解である。

（4）COMESAとUNCTAD、地域情報ポータル設立の取引を開始(2019.5.24)

COMESAとUNCTADは、地域の貿易促進プロジェクトを実施するために共同委託協定を開始した。同協定において、COMESAはUNCTADに「国家及び地域貿易情報ポータル」及び「税関自動化地域センター」の企画と開発を委託する。この2つの活動は、EU開発基金8,500万ユーロのうち300万ユーロ相当の活動となる。国家及び地域貿易情報ポータルは一つのプラットフォームで必要な貿易情報に容易にアクセスすることを促進し、税関自

動化地域センターは、自動関税データシステム（ASYCUDA）に関する技術・機能研修を支援し、アプリケーションを開発利用するための技能の向上につながる。

2. 今後の予定

7月8月～12日 2～3カ国以上の間のリンケージに関する二国間ワークショップ（カンパラ）

7月17日～21日 COMESA国際貿易フェア・ハイレベルビジネスサミット（ナイロビ）

7月10日～12日 第4階イエローカード実施のレビュー調整者ワークショップ（アディスアベバ）

【COMESA の概要】

- ☆ 設立：1994年12月（1981年に設立された東・南部アフリカ特惠貿易地域（PTA）に代わる自由貿易圏）
- ☆ 現議長国：マダガスカル
- ☆ 本部（事務局）：ルサカ（ザンビア）
- ☆ 事務局長：チレンシェ・カプウェプウェ(Ms. Chilenshe Kapwepwe)（ザンビア人。2018年7月就任。）
- ☆ 加盟国：21カ国（2019年5月現在）
ブルンジ、コモロ、コンゴ（民）、ジブチ、エジプト、エリトリア、エチオピア、エスワティニ、ケニア、リビア、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、ルワンダ、セーシェル、スーダン、ソマリア、チュニジア、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ。
- ☆ COMESA 圏の特徴
 - *人口：約5.4億人
 - *総面積：約1,200万平方km（アフリカ全体の1／3強）
 - *全GDP：約7,680億ドル
 - *貿易総額：約2350億ドル（2016年）
 - *域内からの総輸出力：803億ドル（2016年）
- ☆ 活動目的：天然資源と人材をすべてのCOMESA加盟国のための開発への協力に合意した自由独立主権国家による組織。平和と安全保障の促進を必然的に含む広範囲な目的も有する。各国が直面する障壁の克服を可能とする大規模経済貿易圏の形成が主な活動目的。アフリカ連合（AU）が認定するアフリカの8つの地域経済共同体（RECs）の1つ。
- ☆ 主な機関：首脳会議、閣僚理事会（通商担当閣僚級）、政府間委員会（次官級）、COMESA競争委員会、貿易開発銀行、COMESA皮革・皮革製品機関、COMESA金融機関、COMESAビジネスカウンシル、COMESA司法裁判所
- ☆ 主要プログラム：自由貿易圏、関税同盟、貿易促進（域内の電子化関税ネットワークの統一、物品、サービス及び人の移動を円滑にするための運輸通信の管理、民間セクターの成長を促す環境と法的枠組みの創設、安全な投資環境の設立、共通の基準の採用、マクロ経済・金融政策の調和化等

<出典：COMESA Web-Site>

（出典）COMESAウェブサイト(<http://www.comesa.int>) より